

平成 29 年度第 1 回富山県公立大学法人評価委員会 議事概要

1 日 時 平成 29 年 7 月 13 日 (木) 13:30～16:10

2 会 場 富山県立大学 本部棟 7 階会議室

3 出席委員

[五十音順、敬称略]

| 氏 名 | 役 職 等 | 備 考 |
|-------|---------------------------------------|---------|
| 林 幸秀 | 国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー | 委員長 |
| 福田 敏男 | 名城大学工学部教授 名古屋大学名誉教授 | 委員長職務代理 |
| 堀 仁志 | 堀税理士法人 代表社員 公認会計士 | |

4 議 事

- (1) 平成 28 年度の業務実績に関する評価について
- (2) 平成 28 年度の財務諸表及び利益の処理について

5 会議の概要

- ・司会が開会を宣し、総合政策局長より開会の挨拶
- ・司会より、林委員長に議事の進行を依頼し、以後の進行については委員長が行った。
- ・委員長より、(評価の対象である) 法人が本日の委員会に最後まで同席することについて、委員の了承を得た。

議事事項(1) 平成 28 年度の業務実績に関する評価について

<法人説明>

資料 1-1、資料 1-2 などにに基づき、平成 28 年度の業務実績の概要、法人側の自己評価等について説明

<事務局説明>

参考資料 1 などにに基づき、評価委員会の評価(案)を取りまとめるにあたっての手續、評価の際の参考となる事項等について説明

<現場視察>

県立大学が 28 年度において環境整備した箇所(談話・学習室、ロッカー室、女子更衣室など)等を評価委員が視察

(委員長)

- ・参考資料1には、法人の自己評価をもとに当委員会において定めた実施要領等に基づき形式的に計算し、評価委員会の評価（仮）としてA～Bの評価が記載されているが、各委員の意見、質問等を求める。
- ・事務局から本日欠席された委員の意見を伺っているとのことなので、報告をお願いしたい。

<事務局>

- ・委員からは、大学の評価について、特に異論はないと伺っている。また女性更衣室を整備したことは良いことだとのことのご意見も伺っている。
- ・もうお一人の委員からは、県内企業就職率は実態にあわせて評価するべきであり、大学は分析して努力しており、この評価はⅡではなく、1段階上げても良いのではないかということをおの意見として評価委員会に報告していただきたいと伺っている。

(委員)

- ・県内企業就職率については、自己評価をⅡとされているが、シビアではないか。

<法人>

- ・県内企業就職率は前年度に比べ数字としては下がっているのに、Ⅱの評価とした。

(委員)

- ・県内企業から求人は増えているのか。増えているのであれば県立大学の認知度が上がっていると思うが。

<法人>

- ・求人企業数で言うと、27年度は1,052件で、うち県内企業が183件、28年度は984件で、うち県内企業が182件である。

(委員)

- ・比率で見れば、県内企業の割合が増えていることになる。数字で見れば評価できるのではないか。

(委員長)

- ・委員が言われたことは、大事な視点である。
- ・他の数値目標についても目標値に達していないものがあるが、県内企業就職率について特に厳しい評価をしているのはなぜか。

<法人>

- ・県内企業就職率については、昨年度の評価で課題として上げられているのに、数字的に昨年度と比べると下がっているのに、評価を厳しくしている。

(委員長)

- ・ 県内企業就職率の項目でのⅡと安全衛生管理の項目のⅡは同じⅡでも違う。
- ・ なぜ危機管理マニュアルを作成しないのか。どこまで進んでいるのか。

<法人>

- ・ 危機管理マニュアルについては、中期計画の期間中に作成することになっている。
- ・ ただし、大学機関別認証評価の受審の際にも、マニュアルを早急に作成するよう言われており、今年度作成したい。
- ・ 火事や地震時のマニュアルはあるが、他の分野のマニュアルの作成が必要である。

(委員長)

- ・ Ⅱというのは、さぼっている感じが出る。期間中に作成ということであれば、Ⅱにする必要はないのかもしれないが、Ⅱが続くのはよくない。危機管理マニュアルは早く作ったほうが良い。作って不備があれば直せばよい。

(委員)

- ・ 学科改編や定員増など県立大学は勢いを感じる。他大学は守勢だが、県立大学は攻めの姿勢である。その辺がもう少し評価されても良いのではないか。

<法人>

- ・ その点については、研究実施体制の充実の項目でⅣの評価としている。

(委員)

- ・ 県立大学ががんばっていると思っている人は県内でも多いのではないか。

(委員長)

- ・ 小項目の自己評価は法人が評価したものであり、それは尊重したい。一方で大項目ごとの評価については、BをAに格上げをするのか、あるいはSをつけるのかについては、評価委員会に権限がある。
- ・ 今回、評価を引き上げることの是非について、各委員にお聞きしたい。

(委員)

- ・ 自己評価は受け入れるが、BはAでも良いのではないか。あえて来年のために、低くしているようにも見える。

(委員)

- ・ 求人企業数の県内割合が上がっているのであれば、県内企業からの評価が高いということであり、県立大の取組みは進んでいると思われる。
- ・ 危機管理マニュアルの部分については、Bでも仕方がない。

(委員長)

- ・ Sに格上げすることについては、どうか。

(委員)

- ・ 学科拡充や定員増など、2018年問題に先んじて、県立大は手を打ってきている。

(委員長)

- ・ 大学側としては、特にがんばっていると思っているところはどこか。それから、設置団体である県としてはどう評価しているのか。

<法人>

- ・ こちらとしても県内企業のニーズへの対応、2018年問題に先んじて、学科拡充、定員増など県の協力も得ながら努力している。第1の教育、第2の研究の項目については評価しても良いと思う。

<事務局>

- ・ 県立大が努力していることは認める。特に1教育、2研究、3地域貢献の分野について評価は高いと思っている。

(委員長)

- ・ BをSに上げるのは少しどうかと思うので、Sをつけるとしたら2の研究の項目になるか。

(委員)

- ・ 委員長の言うとおりに、BをいきなりSに上げるのはどうかと思うが、Aになっている研究に関する項目をSに上げることについては異論はない。

(委員)

- ・ 県立大の現場も見せていただいたが、将来性、期待感が持てる。その点は記述式の評価で記載してもらいたい。
- ・ 研究の項目については、Sに上げることに異論はない。

(委員長)

- ・ 整理すると、大項目の1教育、3地域貢献の評価についてはBをAに上げることとし、2研究については、AをSに上げることとしたい。残りの項目はそのままとする。
- ・ ただし、この評価はテンタティブ（仮）のものであり、第2回目の評価委員会において、全体評価の記述を見て、再度検討することとしたい。
- ・ 事務局においては、本日の協議内容等を踏まえ、次回の評価委員会に評価委員会としての評価書案を準備していただきたい。

議事事項(2) 「平成28年度の財務諸表及び利益の処理について」

<法人説明>

資料2-1などに基づき、財務諸表等について説明

(委員)

・しっかりと利益を出して、キャッシュフローも問題がなく、特段言うことはない。

(委員)

・目的積立金は何に使うのか。

<法人>

・教育研究の質の向上及び組織運営の改善のために使うことになるが、県と相談しなければならない。

(委員長)

・県に協議するという当期総利益の半額を限度として控除額を算定する考え方は、国立大学法人と同じなのか。

<法人>

・国立大学法人と同じという訳ではない。ただ、積立金に積んでも、赤字の補填にしか使えないので、利益の有効活用を考えていかなければならない。

(委員長)

・特に問題はないようなので、法人側の原案どおりということで、評価委員会としては適切であるとして了承する。
・それでは、議事の(2)の「平成28年度の財務諸表および利益の処理」について、当委員会の意見は、「適切と認められる」ということですので、事務局において、その旨の「意見書」を作成してください。

(委員長)

・これにて、本日の議事は終了します。最終確認をしますが、議事の(1)の評価について、大項目の評価については、仮のものであり、全体評価の記述なども踏まえた上で、次の評価委員会において正式に決定する。議事の(2)の財務諸表および利益の処理については、当委員会の意見は、「適切と認められる」ということですので、事務局において、その旨の知事への「意見書」を作成してください。次回の委員会において確認することにします。委員の皆さん、よろしいでしょうか。

それでは、長時間にわたり、本日はありがとうございました。 (閉会)